

# 読書の旅へでかけよう！

学校司書おすすめの本(小学校・義務教育学校4～6年生向き)



『ニュートン 科学の学校シリーズ  
AIの学校』  
松尾豊/監修  
ニュートンプレス 007

AI(人工知能)は、コンピューターが人間のように物事を考えてくれる技術のこと。AIのしくみや、これからの進化の可能性について、やさしく学べる1冊。



『地理学者シリアへ行く』  
小口高/文  
山本美希/絵  
アリス館 E

地理学者の仕事って何をするんだらう？ページをめくるたびにシリアでの洞窟調査や中東の人々の生活が見えてくる！



『まぼろしの動物ニホンオオカミ  
小学生、なぞのはくせいの正体を追う』  
たけたにちほみ/文  
川田伸一郎/監修  
Gakken 489

小学4年生の白菜子さんは古いはくせいを見つけた。それは世界で6体目のニホンオオカミかもしれない。証明するための調査が始まった！



『給食が教えてくれたこと  
「最高の献立」を作る、ぼくは学校栄養士』  
松丸奨/著  
くもん出版 374

野菜も魚もお肉もきらい、給食なんて大きらい。そんな男の子が学校栄養士になって大活躍！ついに学校給食甲子園で優勝旗を手にするまでに。



『ホタルの光をつなぐもの』  
福岡伸一/文  
五十嵐大介/絵  
福音館書店 486

ホタルの幼虫を捕まえた。ホタルを育てるには何が必要なのだろう。生物学者が自然の中にあるつながりをやさしく語る。



『海 ビーグル号で海たんけん』  
高久至/写真・文  
アリス館 E

古い車を改造したビーグル号で海岸線走り、日本中の海にもぐって探検したよ。いろいろなすがたを知ってほしいな。豊かで美しい海を大切にしていこう。



『ずかん石積み』  
真田純子/監修  
ニシエ芸石積み研究会/著  
技術評論社 511

八王子城跡の階段や、色々なお城のかべを見て、どうやって石を積みあげているか不思議に思ったことはあるかな？この本を読んで石積み博士になろう！



『1945年8月6日  
あさ8時15分、わたしは』  
原爆を体験した子どもたち/言葉  
いわさきちひろ/絵  
童心社 916

原爆が落ちた朝、子どもたちは何を見て、家族はどうなったのか。わかりやすい言葉で語られる戦争。



短編小学校neo  
『うちのクラスに天才子役』  
吉野万理子／作 satsuki／絵  
静山社 913  
6年A組に天才子役と名高い転校生がやって来た。最初は遠くから見ていたクラスメートだけど、彼を知るにつれ距離が縮まっていく。



『チャレンジ！ロボットコンテスト』  
あさだりん／作 難川まつり／絵  
金の星社 913  
快は没収されたゲーム機を取り返すために、ロボットコンテストへの出場を決める。お題はサッカー。攻撃の操縦ロボと、守備のプログラミングロボ作りに挑戦だ。



『カタミの森』  
小森香折／作 出久根育／絵  
小学館 913  
龍の伝説がある平和な森にすむ子ギツネのロビン。ある日、都にすむイクサグマがせめてきた。ロビンと森の動物たちは、圧倒的強さの敵に立ち向かう。



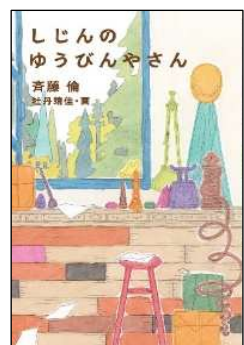
『読書感想文が終わらない!』  
額賀滯／作 satsuki／絵  
ポプラ社 913  
「読書感想文って何を書いたらよいのかわからない」という人にピッタリの本。なぜか小学校の図書室に現れる中学生のフミちゃん、迷える小学生を救う。



『小泉八雲と怪奇バスターズ』  
小前亮／作 もなか／絵  
理論社 913  
動画配信者を目指す勇輝と世斗は怪談動画の撮影に挑戦中。捨てられないタンス、雪女など、町で起こる不思議な出来事を「ソレガシさん」に相談すると……。



『ゴロゴロヤマネコ不動産』  
なんだかあやしいおすすめ物件』  
藤重ヒカル／作 樋口モエ／画  
福音館書店 913  
ヤマネコ不動産が紹介する物件はどれも家賃が安い！ただし、お店にやってくるあやしいお客さんの不思議な注文にこたえるのが条件だ。



『しじんのゆうびん屋さん』  
齊藤倫／作 牡丹靖佳／画  
偕成社 913  
小さな町のゆうびん屋さんは特別な手紙を届けてくれる。それは元気をくれたり、お守りになったりするそうだ。あなたの心に響く手紙もあるかもしれない。



『ドッグタウン物語』  
保護犬チャンスとロボット犬』  
キャサリン・アップルゲイト & ジェニファ・チョールデンコウ／作  
尾高薫／訳 セツサチアキ／絵  
偕成社 933  
保護施設の犬、チャンスとメタルヘッドは、飼い主に再会する旅に出た。はたして会えるのか？



『それからぼくはひとりで歩く』  
アリシア・モリーナ／作  
星野由美／訳 犬吠徒歩／絵  
ほるぷ出版 963  
目の見えないハイメの毎日は冒険と幸せに満ちている。好きなサッカーチームもあるし、友達のおしゃべりも楽しい。そして今日はミゲルと秘密をつくった。



『いまにヘレンがくる』  
メアリー・ダウニング・ハーン／作  
もりうちすみこ／訳  
偕成社 933  
母親の再婚で新しい家に引っ越してきたモリーと弟のマイケル。かつて教会だったその家には、少女ヘレンの影がつきまとっていた。